

豊橋の戦争遺跡マップ

豊橋市教育委員会

高師原演習場・練兵場・小銃射擊場・作業場並大崎水馬場位置要図 大正中期頃

陸軍墓地とは、陸軍の創設時に設けられた「陸軍埋葬地」が始まりですが、徴兵期間中に亡くなった兵士を埋葬するために明治5年9月以降に各地に作られます。日清・日露戦争以後は、将校や戦没者も埋葬されるようになりました。豊橋陸軍墓地は明治18(1885)年に現在地から少し離れた東田町字東前山に設置され、明治30(1897)年に現在地に移り、昭和57(1982)年に公園用地として現在の形に縮小されました。墓地には将校や下士官・兵卒の墓標、清兵の墓標、軍馬の塚、合葬墓、鎮魂碑などがあります。



明治維新以降戦死者・病死者銅板碑
もとは八町練兵場（現在の八町通4丁目）に建てられた「軍人記念碑」の副碑です。碑は鉄板の上に銅板が巻かれており、戊辰戦争から日清戦争の戦死・戦病死者が記されています。

向かって左側の墓標です。手前に兵卒・奥に将校(尉官)の墓標が並びます。もっとも古いものは明治18年のもので生兵(しょうへい・徴兵半年未満の兵)のもので、兵卒は明治26年以前のものが多くみられます。



清兵の墓標
日清戦争で捕虜となった清国兵の墓標です。収容所で亡くなったとみられ、日本の兵卒と同じように埋葬されました。



向かって右側の墓標です。手前に兵卒・下士官の墓標。奥に将校(尉官・佐官)の墓標が並びます。兵卒は明治19年以降、将校は明治29年以降大正10年までのものがみられます。階級に応じて墓標の大きさが異なります。